名古屋大学留学生センター地域貢献特別支援事業

日本語ボランティアセミナー
「若者のための日本語ボランティア入門」

浮　葉　正　親

はじめに

愛知県をはじめとする東海地域は，日本語を第二言語として学ぶ，いわゆる「日本語指導を必要とする外国籍児童生徒」が全国でもっとも多い地域である。小中学校教員だけでなく，地域のボランティアも日本語教育に積極的に関与している。ただし，ボランティア団体の多くは高齢者や主婦が中心となっており，メンバーの高齢化が大きな課題となっている。

そこで，このセミナーでは，昨年度に引き続き，貴重な戦力として活躍している若者たちをパネリストに迎え，若者の視点でボランティア活動への関わり方やその魅力を語ってもらった。参加者には，発表やディスカッションを通して，日本語ボランティア活動の魅力を知ってもらい，新たな担い手として参加を考えるきっかけにしてもらいたいというねらいであった。

研修会の開催

平成21年12月12日（金），名古屋大学工学部 IB 電子情報館2F 大講義室で，セミナー「若者のための日本語ボランティア入門」を開催した。参加者は82名であり，主催者側のスタッフ６名を加えて，計88名である。

このセミナーでは，まず以下の６人の方に「私と日本語ボランティア」というテーマでパネル発表をしていただいた。（所属とボランティア団体名）

⑴　杉浦由佳さん
　（名古屋大学４年，「JETS（ジェッツ）」）
⑵　池田敬子さん
　（三重大学４年，「ジョイア」）
⑶　加藤万律子さん
　（三重大学４年，「がんばる会」）
⑷　古泉裕美子さん
　（三重大学４年，「いっぽ」）
⑸　横溝クリスティーナ小百合さん
　（愛知淑徳大学４年，「稲沢教室」）
⑹　小野田美紀さん
　（NPO 法人「外国人就労センター」代表）

杉浦さん，池田さん，加藤さん，古泉さんからは日本語指導を必要とする子どもたちとの関わりについて，横溝さんにはブラジルから来日したころの話も交えながら地域の日本語教室での活動について，小野田さんには大学卒業後 NPO 法人を立ち上げた経験談を語ってもらった。そして，休憩をはさみ，次にパネリストを囲んでグループで質疑応答やディスカッションをした。（案内チラシ参照）

研修会参加者のアンケート結果から

参加者：82名（主催者側６名を除く）
アンケート回答者：57名（回収率70%）
回答者の年齢層：10代（17名），20代（26名），30代（３名），40代以上（８名），無記入（３名）

⑴　研修会の内容は期待に沿うものでしたか。

・期待以上で，とても満足した。　：17名（30%）
・期待通りで，とても満足した。　：24名（41%）
・期待通りで，まあまあ満足した。：13名（28%）
・やや期待はずれだった。　：２名（１%）
・まったく期待はずれだった。　：０名
（無回答：１名）

⑵　今後，どのようなテーマの研修会をご希望ですか。

○日本語ボランティアと外国人が交流するような研究会に参加したいです。
○今回発表してくださったのが子どもに対する支援についてが多かったので，もっとビジネス向けだったり，主婦層向けだったりといったボランティアについても聞けたら嬉しいです。
○外国から日本に来たときの苦労話をもっと聞いてみたい。聞いてそこから自分にできることがあれば，協力していきたい。
○日本に来ている外国人の方について知りたいです。どのような環境か，どのような不安，悩みがあるのか。
○「外国人が日本社会に入るためのセミナー」などがあればいいと思う。
○ボランティアをする側の意見だけでなく，受ける側の気持や意見を聞ける機会があればと思います。
○ボランティアだけでなく，外国人との交流についての研修会など。

⑶　この研修会に関するご意見，ご感想をご自由にお書き下さい。

○これまで海外で暮らす中で日本語を介して外国人と接して来ましたが，日本国内にも日本語を必要とする人が大勢いて，地域の国際化の取り組みとして，よい活動だと思いました。
○ボランティアって「人の役に立たなくちゃ」というものだと思っていたが，気軽にできる範囲でということで，やってみたいなと思えた。色々な立場の人に話が聞けて参考になった。
○さまざまな場所でボランティアをしている方がいらっしゃって，とても参考になりました。今まで漠然とやってみたいと思っていた日本語教師が少し近づいた気がしました。
○これから自分の世界を広げるため，ボランティアに参加してみたいという決意ができた。とてもいい収穫でした。
○このような活動があることを知らなかったので，とても参考になりました。日本語ボランティアのはじめの一歩になりそうです。来てよかったです。
○外国人のための日本語教室一覧をいただいて，自分の住む地域に多くの日本語教室があることに気づいた。興味があってもなかなか行動を起こすことができなかったが，この研修会を通して少しでも自分のできることをやってみたいと思うようになった。
○日本語ボランティアに限らず，いろんなボランティアに参加してみたいと思いました。ただ，そのボランティアなどに，どういう気持で，どんな意気込みで始めたのかが聞きたかったです。

○グループディスカッションはいいアイディアだと思いました。ただ，ディスカッションするための卓やグループ分けのくじを受付で配ったらもっといいのでは，と思いました。
○外国人の置かれている状況や支援の現状について理解でき，とても勉強になりました。今後，積極的にボランティアに関わっていけたらと思います。
○私は今まで大学の留学生のための日本語の授業で少しお手伝いをしただけで，地域でどんなことがなされているのかほとんど知識がありませんでした。ネットでボランティア団体を探しても，詳細が分からず，なかなか踏み込もうと思えずにいました。今回のセミナーで，実際の様子や地域の現状を知ることができ，とてもよかったです。
○若者の話だけでなく，１人くらい主婦やシニア（社会人）でボランティアにたずさわっている人の話を入れてもいいと思う。社会人になってもできるボランティアというところをアピールできるとよいかなと感じた。
○大学生は勉強だけでも大変だと思うが，それぞれできる範囲でボランティアを真剣に取り組んでいて感心した。どの人もモチベーションが高く，バイタリティもあって興味深かったが，小野田さん，横溝さんの話が特に興味深いなと感じた。大学で日系人だとか多文化共生について学ぶことができたり，興味を持つ人が増えていることはよいことだと思った。
○さまざまな立場の人の意見が聞けて，大変勉強になりました。
○自分自身の視野が広がりました。これからも意欲的に活動していきたいと思います。
○大学生の先輩たちの経験を聞けて，とても参考になりました。
○日本語教室について理解でき，とても参考になりました。
○皆さん，プレゼンテーションがお上手で感心しました。日本語ボランティアはこんなに気軽にできるものとは思わなかったです。
○いろいろな種類のボランティア日本語教室があることがわかり，とても興味深かったです。現在，私もボランティアで外国人の子どもに日本語を教えています。皆さんもいろいろ悩みながら，しかしそれ以上に楽しみながら活動していることがわかり，自信が持てました。

成果と見通しおよび今後の課題

留学生センター，㈶愛知県国際交流協会，㈶名古屋国際センター，東海日本語ネットワーク，四者の連携事業は今年度が７回目となる。若者向けの研修会は，昨年度に続き２回目となった。昨年度の日本語ボランティアセミナー「私が日本語ボランティアをするわけ」は参加者が80名を越え内容も充実したものであったが，肝心の30代以下の若者の参加者が４分の１にとどまった。会場が中区の官庁街であったこと，開催時期がすでに春季休業に入った２月中旬の土曜日だったこと，広報の不徹底などが原因と考えられた。今年度はその反省から，会場を名古屋大学とし，12月前半の金曜日の夕刻に研修会を開催することで，大学生を中心とする若者に参加しやすい環境を整えた。また，案内チラシやポスターに昨年度のパネリストの写真を載せ，若者を対象とすることを強調した。中日新聞，朝日新聞にも研修会開催の案内を載せ，各大学にも積極的に参加を呼び掛けた。その結果，参加者の９割が大学生を中心とする若者となり，「若者を中心とした研修会を開き，日本語ボランティア活動の新たな担い手を開拓する」という当初の目的を達成した。

しかし，今度は逆に「大学生でないと参加できないのか」という問い合わせもあり，シニア世代の方から参加しにくいという苦情を受けた。日本語ボランティア教室の主力となっているシニア世代と新たな担い手となる若い世代との接点をいかに構築するのかという新たな課題も浮上した。研修会そのものの進め方についても，階段教室を会場としたため，グループディスカッションがしにくかった，参加者同士の交流にもっと時間を割いてほしい等の声も寄せられており，今後の課題としたい。